

太陽の子保育園 2021年12月

今年も残すところ、あとひと月となりました。気温がぐっと低くなり冬到来という感じですね。

そんな中でも子どもたちは元気に外遊びを楽しんでいます。しっかり食べて、しっかり動いて、丈夫な身体をつくり、風邪に負けない抵抗力をつけていきたいですね。

冬のやけど 気をつけてあげてください!

ホットカーペットや
カイロなどの
低温やけど

電気ポットのお湯や
ストーブでのやけど

帰省した実家や旅先、訪問したお家などでは、危険な落とし穴を見逃しやすくなります。
また子どもたちの好奇心も高まります。いつもより十分気をつけてあげてください。



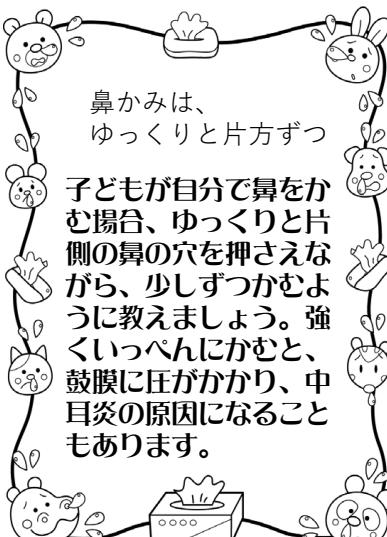
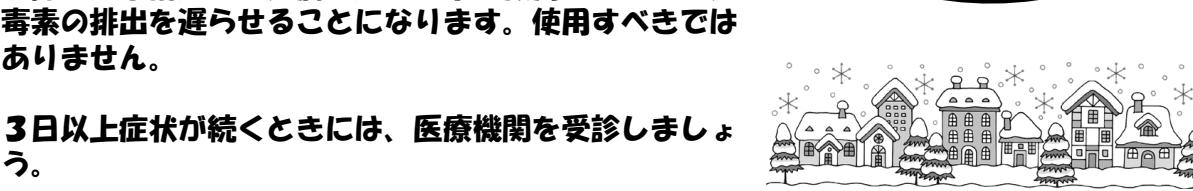
～胃腸炎にかかった時は～

急性胃腸炎は通常1～3日で回復します。

「食べたり飲んだりすると、すぐ下痢をしてしまうので、飲まず食わずにいたほうがよい」というのは間違いです。脱水症状が最もよくないので、こまめに水分やスポーツドリンクを取ることが大切です。

下痢を止めるために、腸管蠕動（ちょうかんぜんどう）を抑える下痢止めや、痛み止めの薬を使用することは、毒素の排出を遅らせることになります。使用すべきではありません。

3日以上症状が続くときには、医療機関を受診しましょう。



お腹をこわした時の
食事については
今月の給食たよりに
載っています。

抗菌薬の服用は慎重に！



○抗菌薬とは、細菌の増殖を抑制したり殺したりする働きのある化学療法剤のことです。

○抗菌薬は、現代の医療において、感染症による生命予後の改善に大きく寄与してきました。その一方で不適正な抗菌薬使用に伴う有害事象として、薬剤耐性菌とそれに伴う感染症の増加が問題となっています。

○その流れをうけ、2018年度診療報酬改定では、「小児抗菌薬適正支援加算」が新設されました。小児科医が、患者（保護者）に対し、検査結果などを基に、抗菌薬を処方しない理由を説明した場合に算定できるというものです。これは、薬を処方しないことに、加算を設けるという今までにない画期的な取り組みです。

<病気の原因と抗菌薬>

病気	一般的な原因		抗菌薬？
	ウイルス	細菌	
風邪/鼻水	○		不要
気管支炎/咳・痰 (元々、元気な成人/こども)	○		不要
百日咳		○	必要
インフルエンザ	○		不要
咽頭炎 (溶連菌以外)	○		不要
滲出性中耳炎	○		不要
尿路感染症		○	必要

○風邪は、ウイルスが鼻やのどにくっついて炎症を起こし、くしゃみ、鼻水、せき、たん、のどの痛み、発熱などがあることを言います。

この、「風邪の原因是ウイルス」というのが大切なポイントです。風邪の原因是細菌ではないのです。風邪の症状はいずれも、体がウイルスと戦っているサインです。

風邪を治すのは自身の免疫力であり、お薬ではありません。医師が処方したり薬局で売られている風邪薬は、風邪のつらい症状に応じた治療（対症療法）で、ウイルスに対する根本的な治療ではありません。

○ウイルス感染症に抗菌薬を使用しても、治療効果がないばかりか、副作用の可能性は上昇してしまいます。



○検査・細菌培養の結果、“細菌”による感染症であった場合には、抗菌薬を使用することにより、症状の改善は早くなります。

○抗菌薬の適正使用＝抗菌薬の使用量の低減、ではありません。必要な抗菌薬を適切な量と期間、投与して感染症を効果的に治療していくことが大切です。